

2016年11月27日

## 福音書からのメッセージ

だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。（マタイによる福音書 24 章 44 節）

今日から降臨節です。12月25日の降誕日に向けて心を整えていく期節です。今日のイエス様の言葉にも「目を覚ましていなさい。用意していなさい」という言葉がありました。ではわたしたちはどのような準備をしておくべきなのでしょう。

あるところに一人の旅人がいました。彼は鳥や植物を観察するのが大好きで、その日も山に出かけていきました。そして道の途中できれいなものや珍しいものを見つけたたびに、夢中になってしまって、いつしか山の奥深くまで進んでいました。気が付くと、あたりは薄暗くなっています。あわててふもとに下りようとしたのですが、道がまったくわかりません。

どうしていいのかわからず、彼は叫びます。「お～い、助けてくれ～」。とにかく何度も何度も叫びます。必死です。誰でもいいから、自分のことを見つけてほしい。その一心で力の限りに叫びます。でも誰も近くはいませんでした。

叫び疲れ、もうあきらめかけてぐったりしていると、ふとどこからか声が聞こえてきます。かすかな声です。「どこから聞こえるんだろう」、必死になって、声のする方向を探します。「こっちか、いや、あっちだ」。その声の方向に目をやると、一筋の光が見えました。そして彼は光を目指して、歩いていくのでした。

彼が準備したもの、用意したもの、それは何だったでしょう。静かに聞く耳でした。遠くから自分を呼ぶその声に耳を傾ける耳でした。そして目でした。一筋の光でさえも見つけることのできるような目でした。



わたしたちも、この旅人と同じような経験をしたことはないでしょうか。わたしたちはそれぞれの道を歩いています。しかし何度も迷い、幾度も傷つき、倒れてしまいま

す。声を枯らして助けを呼び、この暗闇から抜け出したい、歩く道を示してほしい。そう叫び続けたことはないでしょうか。

そのときに、神さまは何をしているのか。黙って見ているだけなのでしょう。そんなことはありません。神さまはわたしたちが、また神さまの元に戻って来られるようにと、必死に探しておられます。神さまは何度も、何度でもわたしたちの心の扉の前で、ノックし続けているのです。

でもその声が、かき消されて聞こえないことがあります。心の中を思い煩いが支配してしまい、神さまの声が心の耳に入っていない。たとえ声を聞いたとしても、神さまに背を向けてしまい、小さな光に気が付かない。

目を覚ます、準備する。それは小さな声に、わずかな明かりに気づくことができるように、心を静め、そなえることです。この世のものに執着せず、神さまにのみ心を向けるのです。神さまは必ずわたしたちの心に、イエス様を生まれさせてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>